

事例17

< 事例概要 >

- ・ 70歳代、腹膜癌の患者。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。
- ・ 原因薬剤は、抗悪性腫瘍剤 (パクリタキセル) 。外来で発症。
- ・ 初回に抗悪性腫瘍剤 (パクリタキセル) を使用し、アレルギー症状の出現無。
- ・ 抗悪性腫瘍剤の点滴 (2回目) を開始した5分後、頸部の瘙痒感が出現し、薬剤投与を中止。初発症状を認めた直後、息苦しさを認め、1分後、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO<sub>2</sub>) 80 %台となり医師へ連絡。2分後、呼吸状態が悪化し緊急コール。3分後、抗ヒスタミン薬を筋肉内注射。8分後、心停止となり心肺蘇生を開始し、アドレナリン 0.3 mgを筋肉内注射。13分後、2回目のアドレナリン0.3 mgを筋肉内注射。救急処置を実施するが、2日後に死亡。